

すくい 議会だより

No.73

編集 議会広報編集特別委員会

○今号の主な内容

3月定例議会のあらまし…2～6

予算特別委員会…7～11

町の考えをたず

一般質問 7議員が登壇…12～18

常任委員会の活動報告…20～21

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り(39) …22～23

3月定例会のあらまし



平成22年度予算を審議した3月定例会の様子

予算総額131億2,177万円を可決 中学卒業まで医療費を無料化へ

平成22年第2回定例会は、3月3日から3月17日までの15日間の会期で行われました。

予算編成方針や主要施策の概要等について町長が施政方針演説を行い、学校教育の充実や社会教育等施策の推進について教育委員長が教育施策方針演説を述べました。

本定例会では、予算案件が12件、補正予算案件が13件、条例の制定案件が3件、条例の一部改正案件が10件、議決を求める案件が16件、その他案件が2件、請願2件、陳情2件、発議2件、発委2件があり、計56件の議案はすべて原案とおり可決しました。

一般質問には7名が登壇し、福祉行政、教育現場、障がい者の雇用対策、地域経済の振興、まちおこしセンター等について、二日間にわたり町当局の考えをいただきました。

条例の制定

○零石町定住促進住宅条例の制定について（全員賛成⇒可決）

旧雇用促進住宅を定住希望者に賃貸する住宅として活用するため制定。

○零石町定住促進住宅維持管理基金条例の制定について（全員賛成⇒可決）

運営にあたり、将来的な維持管理に要する経費を確保するため制定。

○零石町安心子育て医療費給付条例の制定について（全員賛成⇒可決）

安心して子どもを産み育てやすい社会の実現に寄与するため、医療費助成の範囲を中学校卒業まで拡大するため制定。



町が取得することになった旧雇用促進住宅

条例制定の主な質疑

問 定住促進住宅の連帯保証人2名は、町営住宅条例に合わせるとの説明だったが、どこに規定されているのか。

答 町営住宅入居請書の様式の中に連帯保証人2名の住所、氏名を記入する欄があり、今回条例上で2名と表記した。様式にしか定めていないので、検討を加えて規則等の改正を行いたい。

問 住民人口を増やすには町外から入居してもらわなければならない。町広報だけではなく、新聞に掲載する予算も必要ではないか。

答 県や関係機関にチラシを配布するなど、十分連携しながら町外の方が定住できるよう対策を講じたい。

条例の一部改正(主なもの)

○議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）

契約の変更を要する場合のただし書きを削り、財産の取得または処分の予定価格を700万円に改正。

○雫石町死亡動物埋蔵施設条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）

火葬場の開場日における施設の使用を可能にするため改正。

○雫石町長専決条例の一部改正について（全員賛成⇒可決）

議決された請負契約の契約金額1000万円から500万円以内の額に改正。

一般会計補正予算(平成21年度主なもの)

○雫石町一般会計補正予算(第8号)(全員賛成⇒可決)

補正前の額	補正額	計
92億9,906万8千円	△8,047万2千円	92億1,859万6千円

▶町道除雪業務委託料	2,325万4千円
▶雫石診療所特別会計繰出金	2,049万6千円
▶畜産経営安定化緊急対策事業費補助金	1,438万1千円
▶国民健康保険特別会計繰出金(減)	△1,982万4千円
▶新型インフルエンザ予防接種費補助金(減)	△1,137万5千円

○雫石町一般会計補正予算(第9号)(全員賛成⇒可決)

補正前の額	補正額	計
92億1,859万6千円	2,514万7千円	92億4,374万3千円

▶地域活性化・きめ細かな臨時交付金 2,514万7千円

一般会計の主な質疑

問 高速通信基盤整備促進事業が翌年度に繰り越されている理由はなにか。

答 光ファイバーを敷設する事業であるが、国で政権交代後に見直しがあり、着手できなかったため、繰り越しをする。

問 地域活性化・経済危機対策臨時交付金が減額されているのは、入札残とか工事費に変更があったのか。

答 交付金について、算定し直しがあったため、交付限度額が減額となった。

平成22年度各会計当初予算の成立までの推移

会計名	予算額	対前年比	採決結果
一般会計	77億7,000万円	2.8%	賛16、反対2⇒可決
国民健康保険	19億7,611万円	4.1%	全員賛成⇒可決
老人保健	60万円	△68.5%	全員賛成⇒可決
御明神財産区	1,415万円	232.2%	賛16、反対2⇒可決
下水道事業	8億3,909万円	△25.0%	全員賛成⇒可決
農業集落排水	1億6,096万円	△1.1%	全員賛成⇒可決
簡易水道事業	3,046万円	△23.5%	全員賛成⇒可決
介護保険	12億1,610万円	8.4%	全員賛成⇒可決
介護サービス	1,063万円	△0.8%	全員賛成⇒可決
雫石診療所	4億4,000万円	△58.7%	全員賛成⇒可決
後期高齢者医療	1億3,667万円	13.7%	賛17、反対1⇒可決
水道事業	5億2,700万円	△2.6%	全員賛成⇒可決
総合計	131億2,177万円	△3.8%	
予算特別委員会開催日 3月11日、12日、15日、16日			

本会議

賛成反対
討論

採決

一般会計補正予算の主な質疑

問 西根小学校の太陽光発電設備が大きく減額されている理由は何か。

答 補助事業の申請期間が非常に短く、概算で算出したが、300万円ほど予算が多く計上され、さらに200万円の入札残が出たため、計500万円の減額になった。

問 町社会福祉協議会の補助金200万円の減額理由は何か。

答 平成20年度の決算見込みにおける繰り越し剰余金ゼロであったため補助金を支給することにしていたが、決算が確定したところ600万円の剰余金が発生したため、そのうち200万円を返却してもらった。



西根小学校に設置された太陽光発電設備

特別会計補正予算（平成21年度主なもの）

○零石町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
19億3,636万6千円	1億1,554万1千円	20億5,190万7千円

- ▶一般被保険者療養給付費 1億238万5千円
- ▶国庫支出金等返還金 1,192万4千円

○零石町御明神財産区特別会計補正予算（第1号）（賛17、反1⇒可決）

補正前の額	補正額	計
426万1千円	195万8千円	621万9千円

- ▶御明神財産区運営基金積立金 362万2千円
- ▶分収造林保育事業委託料（減） △161万1千円

○零石町下水道事業特別会計補正予算（第4号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
11億3,497万4千円	△1,274万8千円	11億2,222万6千円

- ▶工事請負費更正（減） △929万8千円
- ▶流域下水道維持管理負担金（減） △80万9千円

○零石町介護保険事業勘定特別会計補正予算（第4号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
11億6,609万9千円	2,530万7千円	11億9,140万6千円

- ▶介護給付費準備基金積立金 800万円
- ▶施設介護サービス給付費負担金 700万円
- ▶地域密着型介護サービス給付費負担金 438万円
- ▶介護予防サービス給付費負担金 138万円

○零石町立零石診療所特別会計補正予算（第3号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
10億9,242万8千円	△2,662万7千円	10億6,580万1千円

- ▶資金更正減 △650万0千円
- ▶職員手当等実績による減 △424万0千円
- ▶医療機器購入費（減） △369万1千円

○零石町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）（賛17、反1⇒可決）

補正前の額	補正額	計
1億2,058万5千円	△102万8千円	1億1,955万7千円

- ▶県後期高齢者医療広域連合負担金（減） △172万6千円
- ▶一般会計繰出金 69万8千円

特別会計補正予算の主な質疑

問 国保会計で一般会計からの繰入金で2,966万7千円の減となっている。新聞には平成22年度は多額の繰り入れが必要とあるのに、なぜ、今年度の分は繰り入れを減らすのか、その流れを伺いたい。

答 昨年度の決算で8,800万円ぐらいの繰越金があり、本年度は繰り入れをしながら医療費の扶助費に使ってきたが、残りを3月で締め、一般会計に繰り入れて減としたものである。

新聞に掲載されたように1億3,000万円の余分な交付金をいただいたわけだが、当町ではその分を平成22年度の予算に計上し、1億7,000万円という法定外の繰り入れをし、国保会計の予算を組んでいる。

■指定管理者

公の施設の指定管理者の指定に関し議決を求めることについて
(指定の期間 平成22年4月1日～平成26年3月31日まで)

施 設 名 称	指 定 管 理 者	採決結果
雫石町まちおこしセンター	雫石商工会 会長 加藤 完	賛16、反2⇒可決
雫石町老人憩の家	(株)寿広 代表取締役 北田 泰	全員賛成⇒可決
雫石町デイサービスセンター	日本赤十字社岩手県支部 支部長 達増 拓也	全員賛成⇒可決
雫石町民憩の家鶯宿集会所	鶯宿温泉観光協会 会長 川口 善昭	全員賛成⇒可決
網張温泉ありね山荘	西山牧野農業共同組合 代表理事組合長 十二林 克巳	全員賛成⇒可決
雫石町南畑地区農林産物処理加工施設	雫石創作農園組合 代表 福本 敏	全員賛成⇒可決
雫石町伝統文化保存伝承交流センター	雫石町伝統文化保存伝承交流センター 管理運営委員会 会長 高橋 憲功	全員賛成⇒可決
雫石町飲料水供給施設（桑原飲料水供給施設）	赤滝農村振興会 会長 高橋 勝義	全員賛成⇒可決
雫石町飲料水供給施設（盆花飲料水供給施設）	盆花地区簡易給水施設利用組合 代表 吉澤 貞男	全員賛成⇒可決
雫石町飲料水供給施設（小赤沢飲料水供給施設）	小赤沢簡易給水施設管理運営委員会 会長 小志戸前 昭夫	全員賛成⇒可決
雫石町地域交流拠点施設	(株)しずくいし 代表取締役 山本 浩	全員賛成⇒可決
雫石町農村資源活用施設（総合交通ターミナル施設）	(株)しずくいし 代表取締役 山本 浩	全員賛成⇒可決
しずくいしアグリリサイクルセンター	新岩手農業共同組合 代表理事組合長 田沼 征彦	全員賛成⇒可決
雫石町総合運動公園、雫石町営社会体育施設、雫石町 営クロスカントリースキー場、雫石町ゲートボール場	財団法人雫石町体育協会 会長 堂前 正彦	全員賛成⇒可決

■指定管理者の指定に関する主な質疑

問 まちおこしセンターは地場産品研究開発事業をはじめ、まちなか情報発信事業など5つの事業があるが、この事業の管理運営分具体的な取り組み内容について伺う。

答 具体的な取り組み内容は以下の通り。
 ・郷土料理等の地産地消を含めたメニューの開発
 ・まちなか情報発信機能をもたせるためのホームページの作成
 ・神楽とあやつり人形の公演を12回計画
 ・亀甲織を始め、民芸品等の体験指導
 ・まちなかイベントの検証
 以上を柱にして取り組む。

問 メニューの開発ができた後、どう広げていくのか。

答 自主事業で食の提供もある。また、料理研究会にはホテルとか、旅館、民宿もあるので、使えるものについては提供できるようなメニューになってほしいと考えている。

問 道の駅は指定管理者として(株)しずくいしが運営してきたが、どのように評価しているか。

答 道の駅の産直は年間1億7～8千万の取引があるようになってきた。また、50人以上の規模で雇用も図られており、総合的にはそれなりの評価はできると考える。

問 (株)しずくいしの配当が無いのは、銀河ステーションの部分の思わしくないような説明だが、この先経営そのものはどのような見通しであるか。

答 業務用の産直施設として、まだ確立していない部分があり、その辺のリスクはあるが、道の駅を管理するのみならず、やはり地域に貢献をするのもミッションであろうと考えている。5%配当できるような会社運営体制にもっていききたい。

■請願・陳情

○請願第1号 「後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書」の提出を求める請願（不採択）

提出者＝岩手県社会保障推進協議会 会長 高橋八郎
岩手県民主医療機関連合会 会長 尾形文智

○請願第2号 最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化についての請願（閉会中の継続審査）

提出者＝岩手県労働組合連合会 議長 鈴木露通
盛岡地域労働組合連合会 議長 森本俊雄

○陳情第1号 改正貸金業法の早期完全施行等を求める陳情（採択）

提出者＝岩手県青年司法書士会 会長 佐々木大介

○陳情第2号 核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の決議について（採択）

提出者＝平和市長会議会長 広島市長 秋葉忠利
平和市長会議副会長 長崎市長 田上富久

○発議第3号 核兵器の廃絶と恒久平和実現を求める意見書（全員賛成⇒可決）

政府に2010年の核拡散防止条約（NPT）再検討会議で核兵器廃絶の明確な約束が再確認・履行されるよう強く働きかけるものです。

提出先＝衆・参両議長、総理大臣、総務大臣、他

○発委第1号 幼児教育の無償化と保育サービスの充実を求める意見書（全員賛成⇒可決）

子育て世代の負担を軽減するため、幼児教育無償化や仕事と子育ての両立ができる社会の実現、地方自治体の創意工夫を最大限生かせるよう支援のあり方を検討するよう求めるものです。

提出先＝衆・参両議長、総理大臣、財務大臣、他

○発委第2号 生産性の高い競争力に富んだ農家の育成を求める意見書（全員賛成⇒可決）

戸別所得補償制度の本格導入にあたり、米作り優先ではなく、野菜・果樹・畜産など多様な農業を支援する政策体系の構築を求めるものです。

提出先＝衆・参両議長、総理大臣、総務大臣、他

■発議・発委

○発議第1号 町長の専決事項の指定について（全員賛成⇒可決）

議会の議決を経て締結した工事または製造の請負契約に係る、500万円以内の契約変更を町長の先決事項に指定しました。

○発議第2号 改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書（全員賛成⇒可決）

改正貸金業法の早期完全実施と自治体での多重債務相談体制の整備拡充支援、個人及び中小事業者向けのセーフティネット貸付の充実、ヤミ金融の徹底摘発を国に対し求めるものです。

提出先＝衆・参両議長、総理大臣、総務大臣、他

■人事

○人権擁護委員候補者の推薦に係る議会の意見について

平成22年6月30日をもって任期満了となる佐々木氏の再任に議会の意見を求められ適任と答申しました。



ささき ちえ 氏

（71歳・上町三行政区在住）

臨時会

平成22年第1回臨時会が1月22日1日間の会期で開催され、補正予算案件1件が原案どおり可決されました。

○雫石町一般会計補正予算（第7号）（全員賛成⇒可決）

補正前の額	補正額	計
91億7,465万8千円	1億2,441万0千円	92億9,906万8千円

▶元御所橋高欄補修工事	2,430万0千円
▶雫石小学校屋根塗装工事	1,260万0千円
▶南畑小学校屋根塗装工事	1,078万1千円
▶御明神小学校屋根塗装工事	808万1千円

■補正予算の主な質疑

問 観光総務費の振興緊急対策事業について具体的な内容は。

答 共通入浴券を発行し観光振興をしようとするものであり、3回入浴するともう一回入浴できる温泉めぐりカードを1万枚限定で、1枚1千円で販売する。実質1回当たり250円となるが、入浴施設では400円で清算し、その差額分について町で助成をするものである。

町当局に6項目の意見を提言

意見

1

資源循環型農業構築推進事業のうち、野菜と花卉栽培実証圃調査業務委託が完了したが、アグリリサイクルセンターの堆肥を使っ^{かき}ての調査結果は、効果があったということである。これを町民に公表し、その成果を農産物認証等制度にも結びつけていくなど、フィードバックして活用していく必要がある。

意見

4

観光協会ホームページのリニューアルを検討中ということであるが、国外からの問い合わせを考慮し、英語、韓国語、中国語による案内を取り入れるべきではないか。それとともに該当する国の検索サイトに、雫石が取り上げられるような方策も検討されたい。

意見

2

農林産物直売・食材提供供給システム運営業務（委託料7,201千円）を委託するからには、成果、経済性、特産品が生まれる可能性の追求など課題を与えるべきである。また、町内にある醤油、納豆、豆腐などの企業等にも部分委託するなどして、新たな農業展開へと結びつけていくことも必要である。

意見

5

平成21年度に古い歓迎塔5基撤去したということだが、新規の歓迎塔を検討する際には、沢内方面、南昌道路方面からの進入方向にも設置することを検討されたい。

意見

3

雫石産業まつりで農産物の品評会、表彰だけでなく、料理研究会からの出品やお重の品評会、町内関係企業を巻き込んだ品評、賞品授与など、少し趣向を変えて盛り上げる工夫が必要である。

意見

6

駅レストランで、来客者のアンケートを取るとか、じかにご意見を伺うとか、どうすれば好かれるとか、ニーズを把握し改善していく努力がさらに必要である。

平成22年度予算の議決に対する討論

反対

伊藤哲夫議員

今の経済情勢の中で町長は大変苦勞し予算措置されたと思うが、銀河ステーションは築10年で改装が2回も行われ、3千万円以上を投資する工事に真の目的が見えないことや後期高齢者医療制度も問題が出ており、町内において受診したくても受診できない方もあるなど、納得いかない点もあり反対せざるを得ない。

討論

賛成

石山仁議員

予算原案は、厳しい経済情勢において歳入における町税が1億1千万円ほど減少している。完璧とは言えないにしろ重要度に配慮した積極的な予算編成であることがうかがえる。農業と観光を柱とし町の発展に向け、いい町をつくりたいとする町長の決意を重く受け止め、その努力と指導力、職員の結束力に期待し賛成する。

予算を徹底チェック

平成22年度各種予算審査の中で取り上げられた主な質疑内容。

歳入・総務

問 森林・林業・木材産業づくり交付金の使用目的は。

答 健康センターに整備されたチップボイラーに対する補助金である。

問 税金の収納率が県内で下位であるが、対策は。

答 職員による収納率向上対策本部を立ち上げて対応している。税務調査員、県税担当のOBの方々に頑張ってもらっている。納税意識の向上の面で地域コミュニティー事業にも組み入れて納税運動普及に努めている。

問 火葬場使用料で町外の方について使用料が安いとの声があるが、検討する考えはないか。

答 町内10歳以上の方が6,000円、町外の方は20,000円の使用料である。行政サービスの広域的な連携の中で共有している部分があると思われるので、協調しながら適正な価格を検討していきたい。

問 報償費の道の駅施設活用アドバイザー謝礼とは何を想定しているのか。

答 道の駅も10周年を迎え老朽化が目立ち、業績も厳しい状況が続いている。そこで今後、リニューアルやレイアウト変更のため、ニーズ調査や動向調査が必要であり、専門アドバイザーの意見を聞き、検討していくための謝礼である。

問 「ふるさと文化振興基金事業検討委員」とは基金を使って事業を行うことに対する検討委員なのか、基金を用いて事業をするための委員なのか。

答 ふるさと文化振興基金条例に基づいて町民の活動を支援するが、応募があった事業について、一般の委員にその内容を諮り補助対象事業としてふさわしいか意見を聴く委員会として設置している。

問 在京町友会の交流を本町で開催する考えはないか。

答 東京事務所の開設に関し在京町友会の方がたには盛り上げていただく必要がある。在京町友会の果たす役割は重要であると思われるので検討したい。

農林水産業費

問 戦略作物の米粉米^{こめこまい}は、生産したくても購入先がないと作れないのが現実である。米粉米生産ができるような取り組みを望む。

答 飼料用米の販路拡大に取り組んでいるように、米粉についても需要動向を踏まえ、JAと連携を取りながら前向きに取り組む。

問 農産物認証等制度で、安全・安心とうたうならば、土壌の検査基準だけでなく、作物の検査基準（農薬、化学肥料の使用等）も必要では。

答 従来各JAの生産部会等で行っている栽培履歴などと同様で、減化学肥料、減農薬が前提で行われている。



新年度から始まる農産物認証制度

問 町の公有林活性化のための作業路網の整備を。

答 土木関係者とも連携を取りながら計画的な整備を検討していく。

商工費

問 (仮称) 観光物産センターの運営委託は、商工会なのか、観光協会なのか。また、まちおこしセンターのアネックス(別館)的な運営なのか。

答 指定管理者については、これから詳細な詰めが必要と考えている。

問 (仮称) 観光物産センターの工事費等の合計は約3,500万円となっているが、パーティション程度の間仕切りで役目を果たすのでは。また、テレステップシート(収納式客席)、流し台設備も撤去するのか。

答 テレステップシート部分は展示、会議ができるスペースとし、中央は観光案内、物産の展示販売などを備えた施設とする。テレステップシートは処分し、流し台設備は流用する。

問 雫石駅南側の「星の駅団地」の販売状況は。

答 盛岡市分21区画のうち1区画は売却済。岩手県土地開発公社8区画のうち1区画は売却済で、27区画が残っている。販売促進に積極的に協力していく。



区画の販売が進む星の駅団地

問 (仮称) 観光物産センター、駅のレストラン・産直販売施設、まちおこしセンターに厨房、冷蔵庫、備品等必要な設備を全部準備し、さらには何々推進事業委託料や管理委託料等を出すということが続いている。家賃を取り自立してもらうとか、スーパー、コンビニを入れるとか、工夫すべきではないのか。

答 コンビニ計画はあったが相手が断念した経緯がある。積極的な施策を打って、産業振興、地域振興に繋げていく使命もある。自立させる方向に今努力している途上である。

民生費

問 中学生の通学のため民宿バスを利用する、地域資源活用バスモデル運行委託料には、県補助金が2分の1入っているが、何年間継続できるものか。また、従来のバス運行业者への支払額は減ることになるのか。

答 県の総合補助金を活用し、3年間、モデル事業としてやりながら、中学生の通学体制を全町的に広めていこうとするもの。不便だった地区への新たな路線であり、既存のバス運行业者に圧迫を与えるものではない。



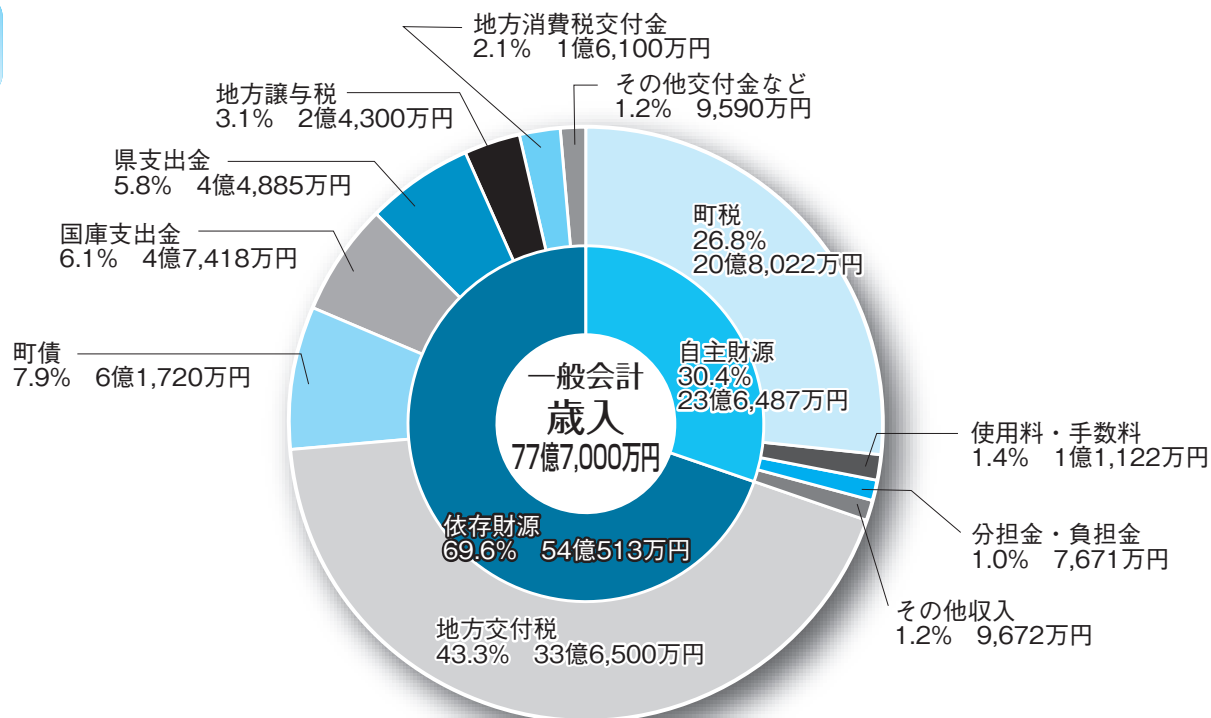
新年度から始まった民宿バスを活用したスクールバス

問 花と緑のまちづくり推進委員等への謝礼や講演会講演委託料、モデル事業委託料等の予算が計上されているが、モデル事業はどのような事業を展開するのか。

答 住民独自の活動に対して支援する事業で、コテージむらに町有地の駐車場があり、その周辺部の土地に試験的にバラを植栽するもので、南畑協議会に委託して実施するものである。また、平成22年度から地域コミュニティ形成推進事業の中に花と緑のまちづくりを新たにメニュー化しているので、自らの地域の景観形成を進めていきたい。

数字で見る予算 一般会計

歳入の内訳



衛生費

問 当町のごみの排出量の現状はどうなっているのか。また、平成22年度の一般廃棄物処理委託料1億5,680万円(前年度1億5,400万円)は、ごみ処理見込み量との関係でどう積算したものか。

答 平成20年度の総排出量は6,690トンで、前年度に比べ322トン(△4.6%)の減量になっており、平成22年の1月末現在では、前年同期比164トン(△3.0%)の減量となっている。一般廃棄物処理については、滝沢村の処理施設に委託(28,000円/トン)をしているが、一部事務組合に向けての話も進めている中で、当初予算編成時に、滝沢村から突如、大幅な値上げをしたいとの申し入れがあり、最小限の値上げを折り込み、30,000円/トンで積算したものである。その後、平成22年度は28,000円/トンでよいということになったので、予算額は減額することになる見込みである

教育費

問 中学校の耐震二次診断の結果、NGだったとのことだが、耐震補強の提案等はなかったのか。

答 耐震補強の提案はなかったが、補強するか、もしくは改築といったことを含め、早急に検討していかなければならないと考えている。

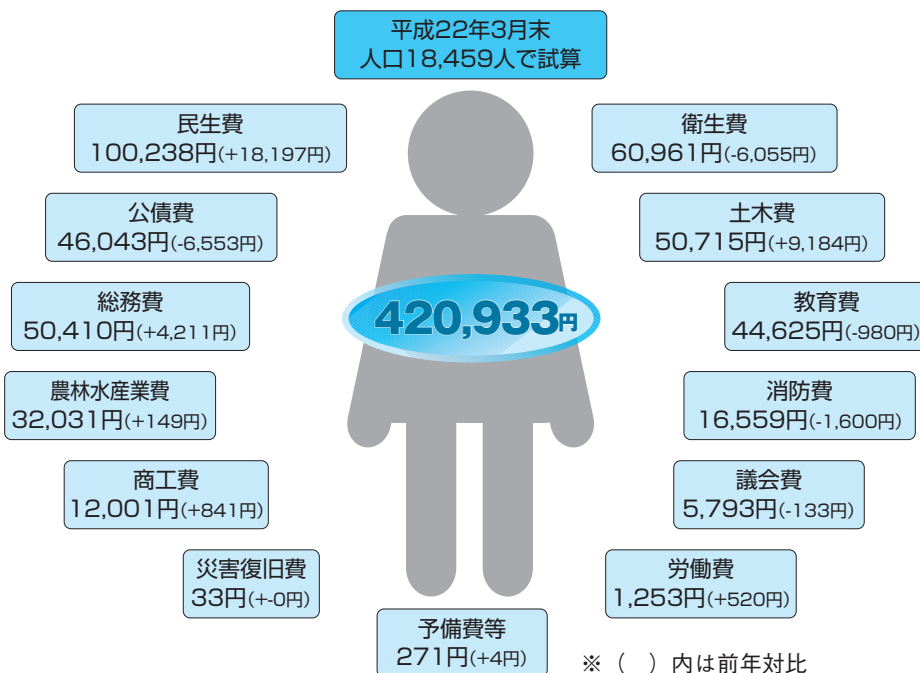
問 小・中学校の学校給食費(食材費)の年間総額はどのくらいか。また、その中における地場産の食材がどの程度使われているか。

答 給食費として、小学校で4,879万2千円、中学校で2,814万1千円を保護者から負担していただいている。地場産の食材は、お米、野菜、旬のもの等を使うようにしており、全体の20%ほどである。零石産で対応可能なものについては、できるだけウエートを高くしていきたい。

町民一人あたりの金額

ワンポイント解説

民生費…主に高齢者、障害者、子どもの福祉に使うお金
公債費…町債（町の借金）返済に充てる経費
商工費…町内の商工業の支援や観光振興などに使うお金
労働費…雇用対策や勤労者の支援に使うお金
衛生費…健康づくりや環境対策、ごみ処理などに使うお金



災害復旧費

問 災害情報発信システムの導入と防災備品購入とはどのようなものを整備するのか。

答 雫石町内をエリアとするNTTドコモの携帯電話を持っている人に災害情報を伝達する配信システムであり、また衛星電話を2台購入し遭難や災害に備える。さらにはJアラート（全国瞬時警報システム）で国が情報発信すると町の広報無線を通じて流れるような接続工事を平成22年度に予定している。

特別会計

問 下水道を整備すればするほど累積の借金は増えていく状況下で、下水道料金の今後の見通しを伺いたい。

答 一般会計からの繰入れを行いながら、生活環境のために必要不可欠な整備であるということで行っている。景気回復後には、段階的に料金の値上げ等についてもお願いしなければならない時期がくるだろうと思っている。

問 雫石診療所の保険診療報酬収入予算の積算根拠となる患者数をどう見込んでいるか。

答 平成22年度の診療所の入院患者数は、19床の満床状態で365日営業する人数、延べ6,935人（前年度と同数）を見込んでいる。外来患者数は、営業日数240日で、1日当たり75人、延べ18,000人と前年度比10%増を見込んでいる。

総括質問

問 景気悪化等の中で、自主財源が減少を続けている。難しい中であっても自主財源を確保する施策を進めなければならないと思うが、どう考えているのか。

答 農業と観光をベースに据えながら、内発的な産業おこしを行っていかねばならないと考えている。特に、農業に関連した食品加工等の製造業の誘致を観光と連携を図りながら行っていきたい。



質問者／
かとう ますみ
加藤真純 議員

「まちづくり基本条例」制定の時期では

町長／検討する基盤を整えていきたい

加藤議員 全国市町村例を見れば手遅れの感さえあるが、今まさに根幹となるべくまちづくりの理念や政策決定のあり方、地域づくりへの町民の参画など、町民と行政の役割分担を明確にしてさらなる住民主体の自治推進の時勢であると考えます。地域の特性を生かした住民参加のもとで、だれが首長になってもまちづくりの基本が変わることのないように基本理念を構成し、まちづくりの方針を定め、計画を立案し、さらに全町的グランドデザイン（全体構想）として集約されている事例が各地でつくられている。本町も制定の時期と考えるが、行政サイドの見解をたずねます。

町長 まずは、住民参画や協働のまちづくりへ向けた各種取り組みを進め、多くの住民の皆様とさまざまなまちづくりの活動の実績を積み重ねながら、本町のまちづくり基本条例を検討する基盤を整えていきたい。

住民の行政への直接参加の機会を増やすことについて

加藤議員 町民が参画できるのはパブリックコメントや説明、懇談会など単なるガス抜き程度で、町民の話は聞いたというアリバイづくりにすぎない。事業仕分けを零石版として町民参加で町民が納得できる仕組みで実施することが一番なのだが。

町長 前回回答の通り事業仕分けを導入する考えはない。事務事業評価および施策評価に取り組んでいるので、今後住民による外部評価が実施できないか検討したい。

委員会や審議会などの委員選出方法の改正と透明化について

加藤議員 「まちづくりパートナーシップ登録制度」の人材条件に準じて各種団体などからの選出を解消し、公募を多くして、町民の声を十分反映でき、町民の視点で客観的公正に判断できる体制の確立を望む。

町長 各種審議会等の所管事項や協議内容を勘案し、必要に応じて例規等の改正も視野に入れながら公募委員の拡大への取り組みを継続し、住民とのパートナーシップの構築の推進に努めたい。

地域情報化推進事業について

加藤議員 平成22年度内に光通信サービスの利用環境を整備する範囲は、どこまでの地域か。それによって町はどのような電子自治体を想定し、どのような内容・工程で進めていくのか。

町長 町内全域を事業対象地域とし、全町民が光通信サービスを利用できる環境を整備する。ホームページを通じたきめ細かな情報提供の充実、町と町民との双方のコミュニケーションなど、身近な行政窓口としての機能を発揮できるよう努める。



町の重要な情報発信手段の一つであるホームページ

質問者／
上野の三
三
四
二
議員

病児・病後児保育の実施を

町長／平成23年度事業開始を目指す

町長 新制度ははっきりしていない部分があるが、国・県の対応状況に応じて本町独自の対策を検討していく。制度の見直しで交付内容が変わる。前年度と比較して交付金は2億2千万円多く見込まれているが、一部農家の活動交付金の減額や交付廃止もあって、今のところ全体の増減は把握できていない。

教育問題・教育現場について

上野議員 中学校にまた授業妨害など動揺が生じていると聞くが現場をどう把握しているか。また、小学校において欠学年が生じたり、5校が複式学級を実施するなど少子化が進んでいる。少人数学年、複式学級対策と併せて、これからの本町教育の課題と展望を聞きたい。

教育長 3学期の受験期に入り、生徒の一部に不安定な精神状態で大声を出し走ったりするなど、他の生徒の授業に影響を与えたことはあった。また小学校の児童数が一定基準を下回り、5校が複式になる。他学年と同時学習となるために自学自習の習慣づけ、集団活動がなく切磋琢磨の機会が少ないため個に応じた指導、自主性の育成、豊かな人間性の育成など、地域ともかわり、少人数校の特色を生かした教育に努力していく。

上野議員 本町の子育ての環境として病児・病後児保育の事業実施の考えはどうか。また新しく支給する「こども手当」と現行の「児童手当」の支給がからくり的で理解が難しい。どのように対応し、今後はどうなるか。次に本町は未婚者も多く自殺者も多い。住みよい町づくりのため重要施策を図るべきではないか。

町長 病児・病後児保育事業は、新年度に施設整備し、平成23年度事業開始を目指して就労・子育ての両面を支援する。こども手当は平成22年度から、月額13,000円を中学修了まで対象に支給されるが、従来の児童手当を含む内容であり町負担がある。町内の対象は1,919人で支給額2億4,947万円となる。平成23年度からは月額26,000円とし、国の責任で検討されている。

結婚問題は農業委員会、福祉協議会で取り組んでいるが成果は思わしくない。

自殺予防対策には積極的に取り組んでいる。さらに専門医や福祉、コミュニティ・ボランティア活動など地域ネットワークづくりを進めたい。

本町の農業課題について

上野議員 新しく取り組む水田利活用自給力向上事業や戸別所得補償制度等について、農業者に納得のいく説明を行い意見をどうまとめたか。また新制度では、本町農業にとって、総収益は増えるか減るか。





質問者／
いしがめ みつぎ
石亀 貢 議員

障がい者の雇用対策は

町長／訪問面談を実施し実態を把握

石亀議員 現下の経済危機により雇用情勢が昨年以上の就職難と言われている。雇用対策は深刻な問題であるが、障がい者の雇用促進に関する法律が改正され、就業機会の職業的自立を図ることが強く求められている。地方公共団体や民間企業も法定雇用率が義務化されているが、本町の実態はどうか。

町長 平成22年1月末現在の障がい者手帳所有者は1,006名で、うち15歳から64歳までの生産人口の障がい者は368名、町では実態調査を行っておらず実数は把握できていない。職安によれば雫石町役場、民間企業の総雇用者数15名の就労になっている。雇用促進は一人ひとりの適正に基づいた雇用が必要であると認識している。平成22年度から2年間で障がい者手帳所有者の65歳未満、約400人対象に訪問面談を実施し、就労状況の実態などを把握する必要がある。

森林整備基金の創設について

石亀議員 長期に安定した水道水供給のために水源地域の森林整備は重要と考える。財源として、水道使用料1トンにつき1円を上乗せし、水源地域の保全、環境と健康を守ることを目的に、森林整備基金の創設はどうか。

町長 本町は面積の70%が森林で、公有林は町有林造成基金、御明神財産区運営基金をもとに、国の交付金事業を活用し、水源地域の保全管理を行い、民有林は水源かん養保安林として国が指定、機能保全に努めている。水源地域の環境を守るため、基金の積立ては重要な提案であるが、積立金は水道料金の上乗せになり、町民や事業者の理解が得られなければ困難であると考ええる。町としては、間伐材をチップ、ペレットに利用するため搬出経費等の助成を検討、森林の整備を促進し、水源地域の環境を守っていききたい。



水源地域（御明神財産区大地沢）の風景

質問者／
かわぐちかずお
川口一男 議員



第二次鶯宿温泉活性化事業の積極的な推進を

町長／重点事業の一つとして位置付け支援していく

川口議員 第一次鶯宿温泉活性化事業において、5年間で2億5,400万円を投入し、「いで湯に花舞い、水輝く里山づくり」を目指し、周辺環境整備と「うぐいす湯の里公園」がオープンとなり、地域住民、そして町民は感謝している。

来年度からの第二次鶯宿温泉活性化事業計画については、御所地区または鶯宿住民でも知らない方が多いが、どのように進行しているか。

町長 平成17年度から温泉内の周辺環境整備と30の魅力づくり事業に取り組み、今年度は最終年度で事業の総括と成果を検証した。地域が主体となった桜園地、フラワーロード、鶯宿川の清掃、小規模旅館を対象とした宿泊特別企画は経営者の意欲で个性的な宿としての魅力の向上が図られた。

観光経済新聞社が主催する、にっぽんの温泉100選へ3年連続ランクインし高い評価を得た。鶯宿温泉観光協会が平成22年度から5カ年で新たに第二次鶯宿温泉活性化事業計画を策定したところである。

川口議員 地域を巻き込んだ計画となっているのか。

町長 第一次事業計画策定に当たっても同じであったが「鶯宿温泉魅力づくり推進委員会」が計画を取りまとめ、住民説明会を開催し計画の賛同を得ている。

川口議員 町行政と鶯宿温泉開発株式会社とどのように取り組んでいくか。

町長 鶯宿温泉開発株式会社が行う温泉の安定供給は、鶯宿温泉の活性化を図る上で欠かすことのできないものである。先般の株主総会において、筆頭株主である町から取締役会に入った方がよいとのことで3名が取締役に就任した。会社と町で協調を図りながら取り組んでいく。

川口議員 鶯宿周辺の町有地の活用について

町長 4カ所ほどあるが、ゲートボール場を整備したほか、残地については企業立地促進法に基づく盛岡広域地域の企業誘致候補地としているが、具体的な計画に至っていない。鶯宿温泉の活性化計画の中でどのように位置付けたらよいかを十分踏まえながら有効活用を見出していきたい。

川口議員 早急な事業推進を願う。

町長 毎年度事業の推進状況を検証しながら目標達成に向けた支援を考えている。平成22年度予算にも支援策分として措置している。



観光の中心である鶯宿温泉



質問者／
いとうてつお
伊藤哲夫 議員

戸別所得補償制度に対する町の見解は

町長／一定の評価ができると考える

伊藤議員 政府は戸別所得補償制度について、昨年末に2010年に実施するモデル対策の内容が示されたが、町としてどのように受け止めているのか見解を伺いたい。

町長 戸別所得補償制度については、10年後の国内の食糧自給率50%を目指して導入されるものであり、米以外の作物の生産を増産させるための「水田利活用自給力向上事業」と水田農業の経営安定を目的とした「米戸別所得補償モデル事業」の二本柱の対策となっている。このうち米戸別所得補償モデル事業については、米の販売価格が生産費用を恒常的に下回るという構造的な赤字部分を補てんすることで再生産を促し、国内農業の再生を図るため、10アール当たり1万5千円の定額部分の交付と当年産の販売価格が過去3年の平均の販売価格を下回った場合に交付される、いわゆる変動部分の交付があり、一定の評価ができると考えている。

地域経済の振興について

伊藤議員 町が発注する工事について町内業者の指名を拡大し、下請けについても地元業者を優先して雇用が小規模業者にも行き渡る事業を分離発注する考えはないか。

町長 町内業者の受注機会の拡大を図るため、雫石町小規模工事等契約希望者登録要領を定め、町内に主たる事業所また住所を有する者で税の滞納がない一定要件を満たした者を登録し、契約担当者はその名簿から工事の目的に適合した業者を選定するなど、見積り参加の機会を与えるよう努めている。景気低迷の現在において、国による各種経済対策も講じられている。より一層、町内業者の育成と受注機会の確保に配慮していきたい。



景気低迷の中においても町内業者の育成に努力を

質問者／
すぎさわとしあき
杉澤敏明
議員



雫石町総合計画の進捗状況は

町長／平成21年度施策まで順調に推移

集中改革プランの取り組み実績は

杉澤議員 行政改革実施計画「集中改革プラン(平成17年度～21年度)」の平成20年度までの各市町村の取り組み状況が公表され、当町の達成率は169.8%と高いものであったが、この実績の主な内容と評価を伺いたい。

町長 公表の内容が経費節減分野に偏重しているが、主な実績としては、平成21年4月1日現在の職員数が244名と計画を1年前倒しして達成しており、また事務事業評価の実施による事務事業の整理合理化では、平成17年度から平成20年度までの累計で108事業、7,300万円の節減を達成しているところである。これらの取り組みに代表される行政改革の進展は、職員が一丸となって全庁的に行政改革実施計画に取り組んだ成果であると考えている。

杉澤議員 町は、行政運営の基本方針となる雫石町総合計画後期基本計画(平成18年度～22年度)を策定し、具体的な施策の実現に取り組んでおり、実施計画と施策評価で構築するマネジメントサイクルによる進捗状況と課題の把握等により、諸施策の着実な推進に努めるとしている。

現在、平成20年度までの施策評価調書は公表されているが、平成22年度には次期総合計画を策定するとしていることから、現時点での概括的な施策評価を伺いたい。

町長 平成20年度までの施策評価結果では、48ある施策の中で37の施策がB判定であり、おおむね順調ということに進捗している。平成21年度における施策評価については、昨年10月に行った事務事業評価の中間評価状況および最近の事業進捗状況をもとに行ってみると、平成20年度に比べて遅れている施策は基本的にはないものと考えている。環境基本計画の策定、健康センターの一部供用開始、雫石町教育振興運動推進協議会の発足、しずくしい料理研究会や農産物認証制度などの産業間連携に向けた仕組みづくりが大幅に前進したことなど、順調に推移している。



平成22年度からの行政改革実施計画が策定された



質問者／
おおむらしょうとう
大村昭東 議員

NPOの指導監督はどうなっているか

町長／契約に基づいて管理監督している

大村議員 本町のNPOなどの公共サービス業務受託団体の委託料などに係る管理監督体制はどうなっているか。

町長 町が業務の委託で求めるのは一定の成果であり、このことを契約書や仕様書に明記し、業務完了後の検査により成果の状況を確認しており、契約業務履行中における瑕疵や不備があれば契約に基づいて監督指導を行っている。

大村議員 町の業務の委託を受けているNPO法人の決算状況や業務実績に係る資料、あるいは総会資料は町に無いと聞いているが、委託業務が適切に執行されているかどのようにして確認しているか。

町長 委託や指定管理についての契約そのものについては町が所有しているが、NPO法人に係るトータル的な部分については、町は承知していないということである。

大村議員 代表監査委員に尋ねるが、NPO法人や補助金を受けている団体について定期的に監査を行い、税金意識の向上を図るべきではないか。

代表監査委員 何年かに1回、実地に調査しているが、時間の許す限り十分調査を実施したい。

農業・農村振興について

大村議員 農業・農村の行く末に危険信号が点滅し始め疲弊が著しい。本町の農業生産の減退の流れを断ち切るために、農業指導センター、農業青年教育、農協などとの連携協議、米穀類の生産販売、産学官の取り組み、新しい価値を作り出す新分野開

拓、アグリリサイクルセンター、コテージむら農場などのあり方、生活環境整備の進め方などについて何度も質問しているが、生産力低下という病を治療するためにどのような行動を起こしてきたか。

町長 人材を育てるため各職場において、管理職およびグループリーダーが経営者として自覚を持つことを求めている、業務遂行に対する協約や人事考課の試行により各業務に対応できる人材づくりに努める。しずくいし産業再生戦略会議の検討課題であった農産物認証制度について目標数値を定めて取り組む。

まちおこしセンターについて

大村議員 本年4月オープンする「まちおこしセンター」を、中心商店街の活性化、町おこしのために何をどのように実施するのか。その目的実現の行程表、戦略ロードマップはどうなっているか。

町長 このセンターは、地場産の食材を使った特産品の研究開発、伝統工芸や伝統芸能の伝承活動などを実践し、町内外から集客できるようTMO※雫石商工会の企画提案を受けて町が整備したもので、指定管理者に予定している商工会に、誘客、イベント活動や商業はもとより農業、観光等、多様な分野と連携した事業を実施していただく。

大村議員 A4判1枚程度の事業計画で、町おこしや商店街の活性化ができるのか。
産業振興課長 企画書が何回か精査されて町に出されている。

※Town Management Organization（タウンマネジメント機関）の略。
中心市街地における商業まちづくりを運営・管理する機関。

あの質問は…その後どうなった

追跡
レポート

町議会で行われた質疑の中から3項目を選び、その提言が町政にどう反映されているのかを調査しました。

質 問

子育て支援対策として中学校卒業まで医療費の無料化を拡大する考えはないか。
(平成21年12月議会)

処理状況

その後

少子化対策および生活援助の面から中学校卒業までの医療費無料化を未来への投資と考え、拡大し「安心子育て医療費給付条例」を制定、平成22年度から実施する。



質 問

あねっこバスのありね山荘への乗り入れについて、町民の期待が大きいが対応策を。
(平成21年9月、12月議会)

処理状況

その後

かねてより運行要望のあったあねっこバスのありね山荘への乗り入れについては、生活交通としての機能を損なわない範囲で、運行の安全、運行ダイヤ等の検討をし、平成22年4月から乗り入れを開始する。

質 問

御所大橋、天沼橋付近の通学路整備について、県との連携や要望はどのように進められているか。

処理状況

その後

担当の盛岡振興局土木部道路環境課との協議、町民の要望を伝え、現在工事中である。計画では平成22年度で歩道整備を完了する。



常任委員会●活動報告

調査実施日／平成22年2月26日、3月4日
調査項目／所管事務調査、陳情審査など

総務

総務常任委員会（前田隆雄委員長）は、以下の所管事務調査、請願・陳情審査等を行いました。

1. 2月26日「所管事務調査」
平成22年度、予算に係る重点事業について、経営推進課、総務課、税務出納課より概要説明を受けました。
2. 3月4日「陳情審査」
陳情第1号「改正貸金業法の早期完全施行等を求める陳情」ならびに陳情第2号「核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の決議について」を審査し、「採択」として意見書を提出することとしました。
また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。
 1. 自立する町づくりについて
 - ・ 景観に配慮した町づくりについて



重点事業の一つであるまちおこしセンター

調査実施日／平成22年2月12日、26日、3月4日
調査項目／教育委員との懇談会、現地調査、所管事務調査、請願審査など

教育民生

教育民生常任委員会（石亀貢委員長）は、以下の現地調査、所管事務調査等を行いました。

1. 2月12日「町教育委員との教育行政懇談会」
当町の学校における課題ならびに当町にふさわしい教育の実現に向けた取り組み等について意見交換を行いました。
2. 2月26日「所管事務調査」
社会教育課、学校教育課、福祉課、環境対策課、健康推進課、保健課、健康センター準備室、住民課から、平成22年度予算に係る重点事業等について説明を受けました。
3. 3月4日「現地調査」、「請願審査」など
平成22年4月1日から民営化（雫石町社会福祉協議会へ移管）される西山保育所を視察し、業務の引き継ぎや建物の状況が良好であることを確認しました。
視察後、請願第1号「後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書」の提出を求める請願書の審査を行い、平成24年度までに制度改正されることになっていることなどから、「不採択」としました。
また、「幼児教育の無償化と保育サービスの充実を求める意見書」を委員会の「発委案」として提出することに決定しました。
また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。
 1. 学校課題について
 2. 医療、福祉について

伊藤哲夫議員が 全国町村議会議長会から 特別表彰

伊藤議員は昭和50年から通算8期31年の長きにわたり町議会議員として地域社会の発展および住民福祉の向上に貢献されたことに対し、全国町村議会議長会より特別表彰をされました。今後もますますのご活躍が期待されます。



調査実施日／平成22年2月26日、3月4、24、29日

調査項目／現地調査、所管事務調査など

産業建設

産業建設常任委員会(猿子恵久委員長)は、以下の現地調査、所管事務調査等を行いました。

1. 2月26日所管事務調査

平成22年度予算重点事項について産業振興課、地域整備課より概要説明を受けました。

2. 3月4日アグリリサイクルセンター視察

すっきりと整理整頓されたセンター内では、今春より、牛糞・鶏糞混合による堆肥が生産を開始するなど、フル稼働していました。

酪農家からの堆肥原料の受け入れが課題で、双方にとってメリットが出るような仕組みが確立できれば、さらに堆肥生産が充実することが期待されます。

3. 3月24日八幡平山系に係る直轄砂防事業促進期成同盟会関係市町村議会議員研修会

秋田県仙北市で行われた雫石町、仙北市、滝沢村、八幡平市4市町村による河川砂防事業に関する事業推進研修「防災気象情報とその利活用」および秋田駒ヶ岳火山防災ステーションの視察を行いました。

4. 3月29日第23回牛友会表彰式、講演会

和牛改良組合、和牛育種専門部、肥育部会の三者合同の雫石町「牛友会」の集いが行われ、繁殖農家と肥育農家の表彰およびオバナヤ・セメンテックス㈱の青木勇二氏の講演会に参加しました。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

1. 農業・観光の振興策について

2. 特産品の開発について



アグリリサイクルセンターで担当者より説明を受ける

「しずくいし議会だより」が 全国コンクールで2年連続入選！

第24回(平成21年度)町村議会広報全国コンクールにおいて、「しずくいし議会だより第69号」が、昨年度に引き続き入選しました。これからも最優秀賞を目標に編集に一層努力してまいりますので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。



広報編集委員
(左から加藤委員、川口委員、村田委員、谷地委員長、石山副委員長、田中委員、杉澤委員)



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



おおつば ゆうじ
大坪 裕次さん
(42歳・上町三行政区)



いとう よろず
伊藤 萬さん
(64歳・九十九沢行政区)



えんどう まさお
遠藤 雅男さん
(59歳・網張行政区)

初めて予算委員会を 傍聴して

議員の皆さんの日頃の活動に感謝申し上げます。

議会傍聴は何度かしましたが、予算委員会は初めてでした。予想外の質問や答弁に感動を得ました。雫石町の産業振興ととりわけ農業に注目し、農林関係を傍聴しました。議員どなたも農畜産物(花卉含む)の生産から販売まで細部にわたり議論していました。農業団体と一体となった取り組みを進めるとの町長の力強い答弁を聞き、農家として農業への取り組みにさらなる自信を得ました。さらに教育、福祉、観光、環境保全等への意見が多く、議員の皆さんの細部にわたった町政への取り組み姿勢が見え感動しました。最近の経済の低迷する中、何かに活路を求め、町政に元気を・・・目指す姿、議員の皆さんはもちろんですが、町当局も同じと拝見しました。

最後に全町民等しく情報を共有できるように光通信の早急な配備と携帯電話の難聴地域の解消をお願い申し上げます。

雫石町まちおこしセンター 運営に当たり

私、近々オープン致します、雫石町まちおこしセンターで働かせていただくことになりました。

その名のとおり、町おこしを主目的とした施設です。これまでに無い重責に日々、身が縮まる思いでいます。

さて、まちおこしセンターの運営は、スタッフのみでできるものではございません。まず、町民の皆様に活用していただくところから始まるものだと思います。さまざまなイベントを通じ、皆様との直接対話をさせていただき、町おこしにつながるアイデアやご意見を頂戴し、きっかけを作っていきたいと思っています。議員の皆様には、良き理解者として温かく見守っていただき、時には厳しいご意見を賜りたいと思います。そして、これまで停滞していた雫石の活性化のスピードを上げるべく、町民並びに議員の皆様のご協力をお願いいたします。

町政に女性の声を

雫石町に移り住んで25年が過ぎました。自然の素晴らしさはもちろんのこと、農場、温泉、スキー場、ゴルフ場等々、大変恵まれた環境であると思います。また、「広報しずくいし」「しずくいし議会だより」等は見やすく、町の情報源として大変ためになっています。

そんな誇れる我が町の活性化のために一つ提案させていただきます。現在、町議会議員が全員男性であり、なかなか女性議員が誕生しにくい状況にあると思います。古い言葉ですが「台所を離れて政治なし」というように、家庭の中心は台所であり、これを束ねているのは女性なのです。そのことからしても女性の意見を重視し、町政に反映させなければならないと思います。そこで、農業、商業、観光の各婦人部と議員との話し合う場を多くもうけていただきたいです。そうすれば近い将来、女性議員の活躍によって町政に新しい風が吹くのではないのでしょうか。

先祖と崇める神社のご加護に守られて

ふるさとへの便り— 39



はしもと のぼる
在京雫石町友会 会員 橋本 昇さん

私は昭和18年長山野中行政区に生まれた。岩手山がとてもきれに見える場所である。先祖は寺(注)であったせいか我が家には「屋号」がなかった。

私は昭和34年春雫石高校入学と同時に急扨上京した。理由は次男馨(民謡歌手・酒店経営)三男晃(エイト電化創設)の勧めで将来を見据えてのことであったが、今でも高校生活には少なからず未練が残っている。家庭の事情もあったが少年時代は趣味のようにアルバイトに夢中だった。夏休みなど小岩井農場でアルバイト(1日130円)、炭焼き、吹雪の中の電報配達(50円)診療所の薪割り(50円)、役場の宿直もした記憶がある。

私の家には馬力大会では何度も優勝した自慢の農耕馬がいた。馬との一番の思い出は冬の網張り付近から馬糞に丸太を積んで雫石駅まで運んだ木出し作業だ。朝早く出かけ帰りは夜10時近くなり今では想像し難いほどの過酷な労働であった。帰りに町の食堂で食べた30円のラーメンの味は今でも忘れられない温かく美味しい思い出である。このような経験

は上京後の生活に大きく影響してきた。厳しいアルバイト経験は精神的にも肉体的にも我慢強く鍛えてくれた。上京してからは、いろいろな職業を経験したが、28歳のとき縁あって結婚した妻の影響で、夜学で理容師免許の資格を取り、ヘアーサロン経営の道に入り現在に至っている。

上京後いろいろ危険な目にも遭っているが、間一髪救われたこともある。先祖と崇める橋本観世音神社のご加護によるものと感謝している。8人兄弟(6男2女)のうち6人上京したが現在は妹と二人になり寂しくなったが、帰省の際には縁のある神社で先祖に手を合わせている。仕事も一段落した今は、町友会の皆さんと親交を深めているが、まだまだふるさとで健康に活躍されている同級生とゆっくり語り合いたいと思うこの頃です。

(注) 橋本寺：1532～1554創建。明治3年6月盛岡藩の神仏整理により廃寺としご本尊を広養寺に預けるまで代々橋本寺(観音)として存在した。その後明治24年(橋本甚之助の頃)現在の野中橋本観世音神社(氏神様)として祀られた。(別当堂前家)



野中 橋本観世音神社鳥居



家族旅行(富士忍野村)にて

橋本 昇さんプロフィール

昭和18年5月生まれ。下長山小学校、西山中学校、雫石高校(中退)、糸川時計店、東芝、橋本薫商店、東京高等理容学校、ヘアーサロン橋本(東京・市川に5店舗経営)家族は妻、長男、長女、孫。趣味は写真。

雫石町へようこそ

お嫁さん

お婿さん



夫の裕一さん、長男の俊君と一緒に

ご縁があり、他の市町村から嫁いできた「お嫁さん」または、選ばれてきた「お婿さん」が登場します。

木村 ^{りつこ} 律子さん（28歳 滝沢村出身）
（旧姓：青山）（南行政区在住）

Q-お二人のなれ初めは？

-同じ趣味だった盛岡のピリヤード場で知り合い、一緒にプレーしているうちに打ち解け、お互いに意識し始めたように思います。

Q-嫁ぐ前の町のイメージは？

-スキー場が多いぐらいしかわかりませんでした。

Q-町で暮らした感想は？

-三年目になりますが、周りの方がとても親切で助けられ感謝しています。

Q-町に望むことは？

-医療機関は多いのですが、産婦人科等があれば助かります。放課後児童クラブ等利用料がもう少し安ければ助かります。

Q-今後のお子さんの予定は？

-長男が今度3年生になり、次男が7カ月ですが主人はあと二人くらい欲しいそうですので頑張ります・・・

議会の話題を紹介します

雫石町政務調査会・滝沢村政調査会合同研修会

1月15日に開催され、岩手県総務部総合防災室の中野忍主任が「さまざまな災害の概要と自主防災組織について」と題して講演。



平成22年度町職員定期人事異動

監査員事務局（議会事務局併任）

- ・転出 柳屋るり子主査（総務課へ）
- ・転入 清水真紀主任（税務出納課から）

併任書記（任命）

- ・吉田留美子主査（総務課）
- ・高橋 幸一主査（産業振興課）
- ・築場 徳光主査（地域整備課）
- ・上村 光俊主査（健康推進課）



清水真紀主任

※併任書記…効率的な議会運営のため、議会と町当局の連絡調整に当たるパイプ役として議会事務局以外の職員を任命しています。

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳（1月～3月）】

月	葬祭費		お祝い、会費	
1	0件	0円	4件	18,000円
2	0件	0円	3件	13,000円
3	0件	0円	4件	15,000円
小計	0件	0円	11件	46,000円

■編集デスク

「しずくしいし議会だより」が全国コンクールで二年連続の入選となり、皆さんとともに喜びの中にいます。

3月定例会が15日間の会議日程を終え、いよいよ新年度事業へと展開される今日です。議会、議場とは各議員がまちづくりについて、さまざまな角度や視点から調査、考査をし、町当局へ質問、提言をし、町の発展を願い、議論する言論の場です。本紙を通して議会活動を理解していただければ幸いです。（編集委員 村田厚生）

●今号の表紙／本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたしております。笑顔が絶えないまちの元気な子供たちの様子を紹介。今回は、「下長山小学校」に通う新入生の笑顔です。